

1. 調査の概要

■ 調査対象

2018 年度に入学した全ての学生

■ 調査期間と方法

1 年次生の必修科目である「基礎ゼミナール」の授業中に回答してもらった。アンケートは学内に構築したアンケート用サーバを用い、コンピュータないしはスマートフォンなどを用いて Web から回答してもらった。調査は記名式で実施した。個人を特定するユニークなトークンを含む回答用ページの URL をあらかじめ各個人の E-mail アドレス宛に送付し、各学生のメールに記載された URL から回答してもらった。

■ 主な調査項目

- 本学の志望順位
- 入学決定理由と決定に役立った情報源
- 大学の魅力やイメージ
- 大学生活について
- 身につけたい力や学びたいこと
- 入学前の学修状況・学修行動
- 大学進学理由など

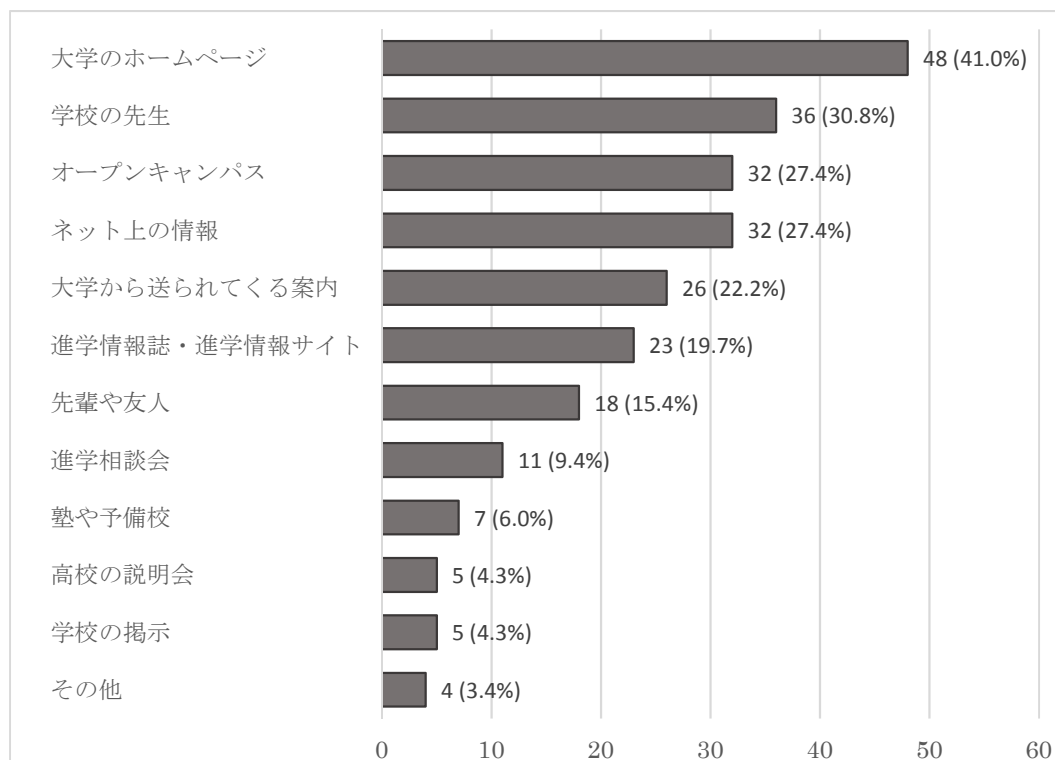
■ 回収状況

【図表 1】回収状況

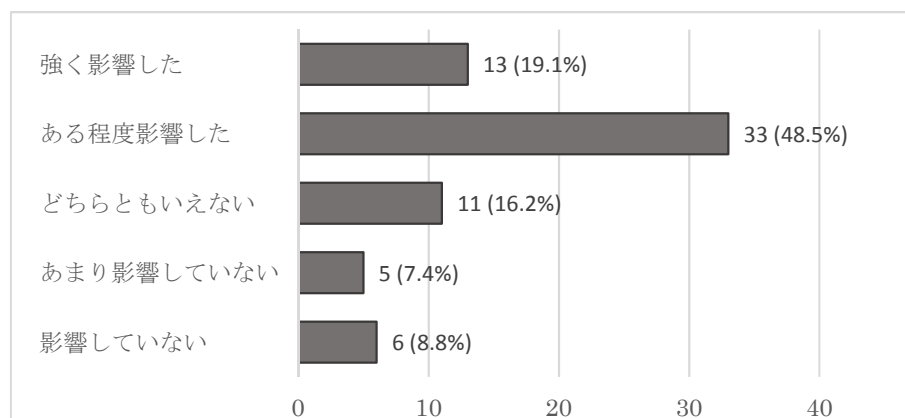
	回収数	回収率
男性	35	74.5%
女性	82	75.2%
合計	117	75.0%

2. 入学決定理由・大学の魅力など

大学を選ぶとき、京都外国語短期大学を知るのに役立つ情報源について複数選択式でたずねた（図表 2）。相対的に多くの学生が言及するのが、「大学のホームページ」「学校の先生」「オープンキャンパス」である。「大学のホームページ」や「オープンキャンパス」など、大学が受験生に対して直接提供する情報とともに、「学校の先生」を通して本学の特徴や教育内容について知った学生が多いようである。なお、オープンキャンパスに参加した学生については、参加したことが受験や入学をある程度左右したと回答している（図表 3）。やはり、キャンパスに足を運んで直接的に得た情報や印象は、大学選択を大きく左右しているということだろう。



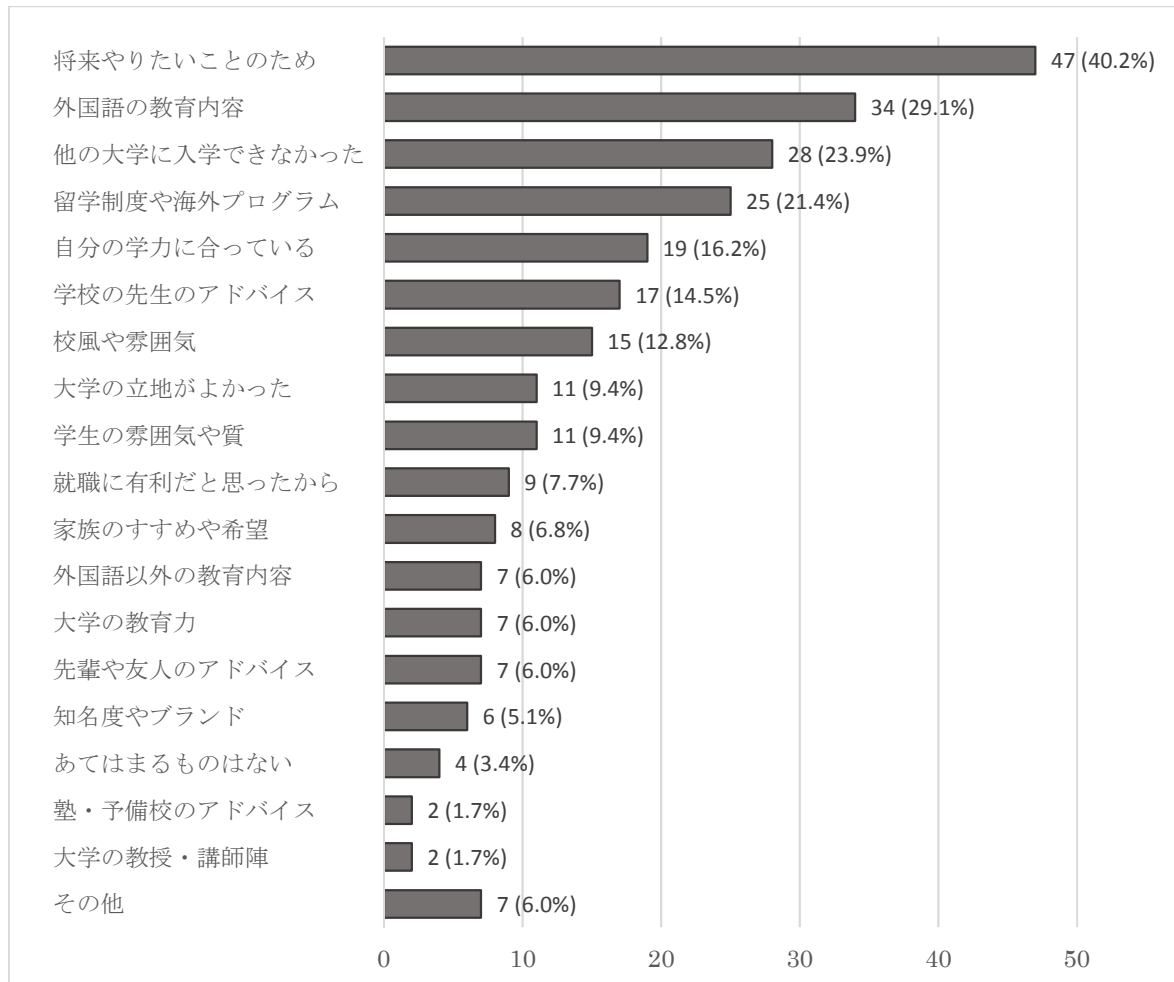
【図表 2】 本学を知るのに役立つ情報源



【図表 3】 オープンキャンパスが受験や入学に影響したか

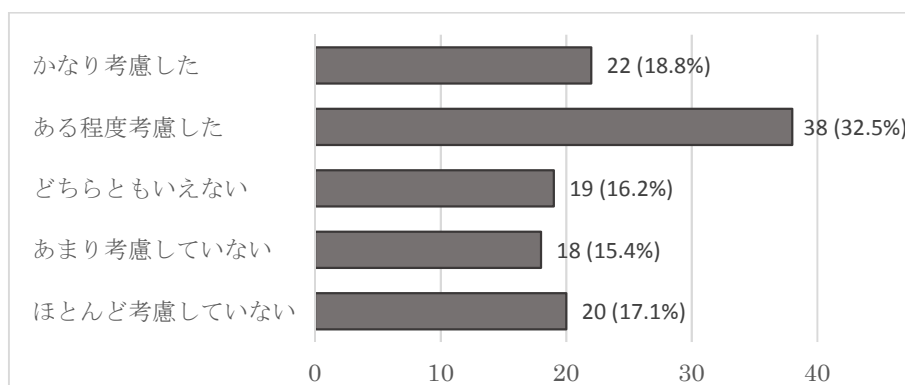
本学に入学を決めた具体的な理由を複数選択式でたずねた（図表 4）。多くの学生が言及しているのは「将来やりたいことのため」という理由であり、将来の進路や職業をみすえて本学を選択していることがうかがえる。これに続いて「外国語の教育内容」への言及が多い。将来やりた

いことのために外国語を勉強したいと考えている学生が入学しているということだろう。他方で、「他の大学に入学できなかった」というネガティブな理由への言及が多い点は気になる点である。本学への入学が不本意な学生が一定数存在していることを念頭に、大学生へのエンロールメントのあり方を考えていく必要があるだろう。



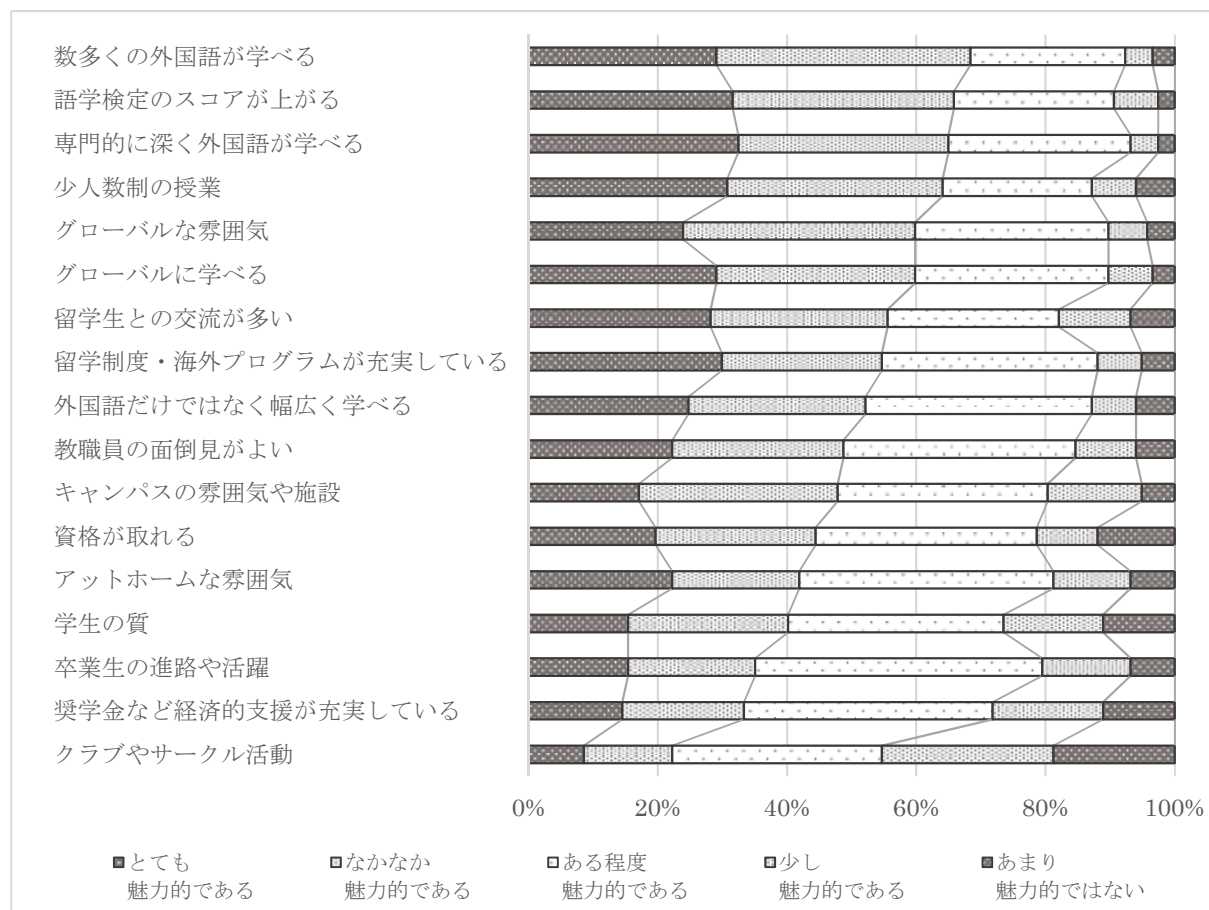
【図表 4】 本学に入学を決めた理由

本学が京都にある大学であるということを大学選択で考慮したかどうかをたずねたところ、約半数の学生が京都という立地を意識したことがわかる（図表 5）。



【図表 5】 大学を選ぶときに「京都」という点を考慮したか

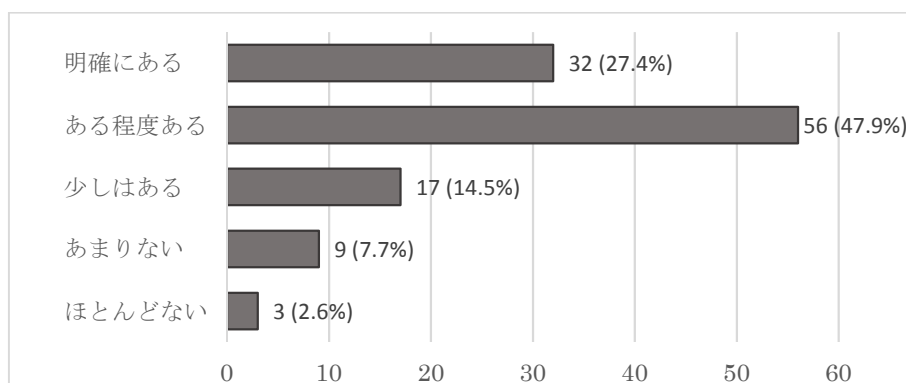
大学を選ぶときに感じた本学の魅力について、それぞれ5段階でたずねた（図表6）。本学の魅力だと考えられているのは、「数多くの外国語が学べる」「語学検定のスコアが上がる」「専門的に深く外国語が学べる」など、外国語教育が充実している点にあることがわかる。また、少人数制の授業といった教育スタイルにも魅力を感じる学生が多いようである。



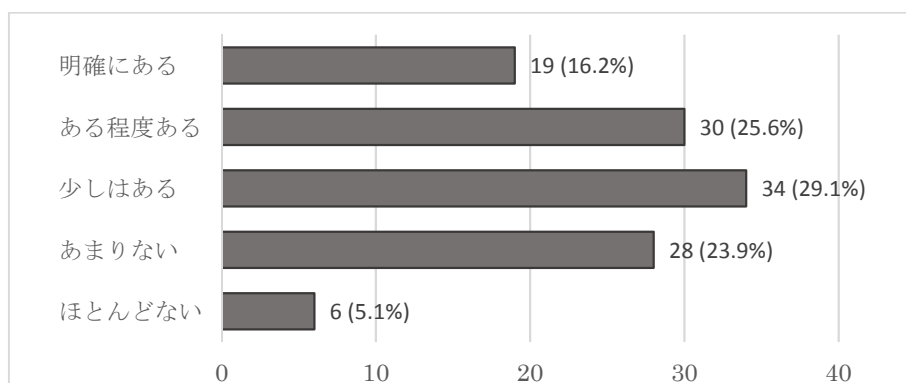
【図表6】大学を選ぶときに感じた本学の魅力

3. 大学で勉強したいことや取り組みたいことなど

大学で勉強したいことや取り組みたいことが具体的にあるかどうかや、卒業後の進路や職業についてどれくらい明確になっているのかをたずねた（図表 7、8）。大学で取り組みたいことについては、多くの学生がある程度イメージを持っており、明確にやりたいことがある学生も比較的多い。多くの学生は、目的意識をもって進学していることがうかがえる。他方で、卒業後の進路や職業については、入学直後の段階では、大学で取り組みたいことと比べると相対的に明確にはなっていないようである。



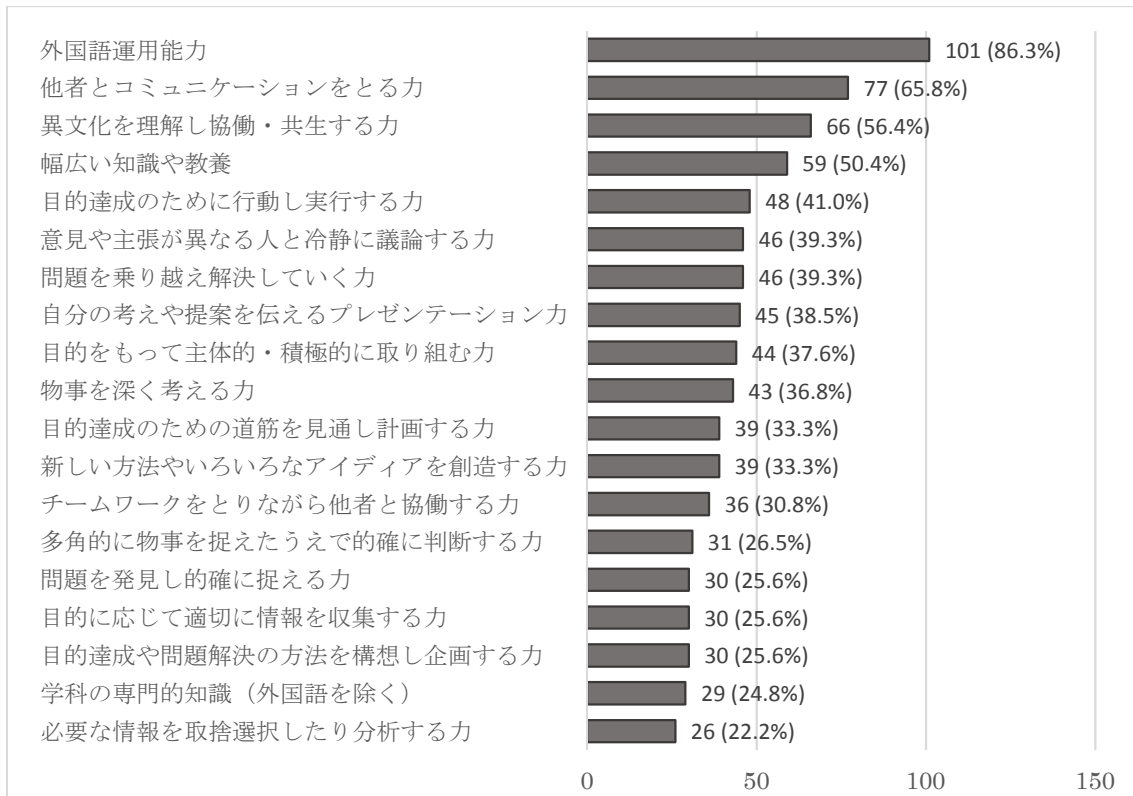
【図表 7】大学生の間に勉強したいことや取り組みたいことが明確になっているか



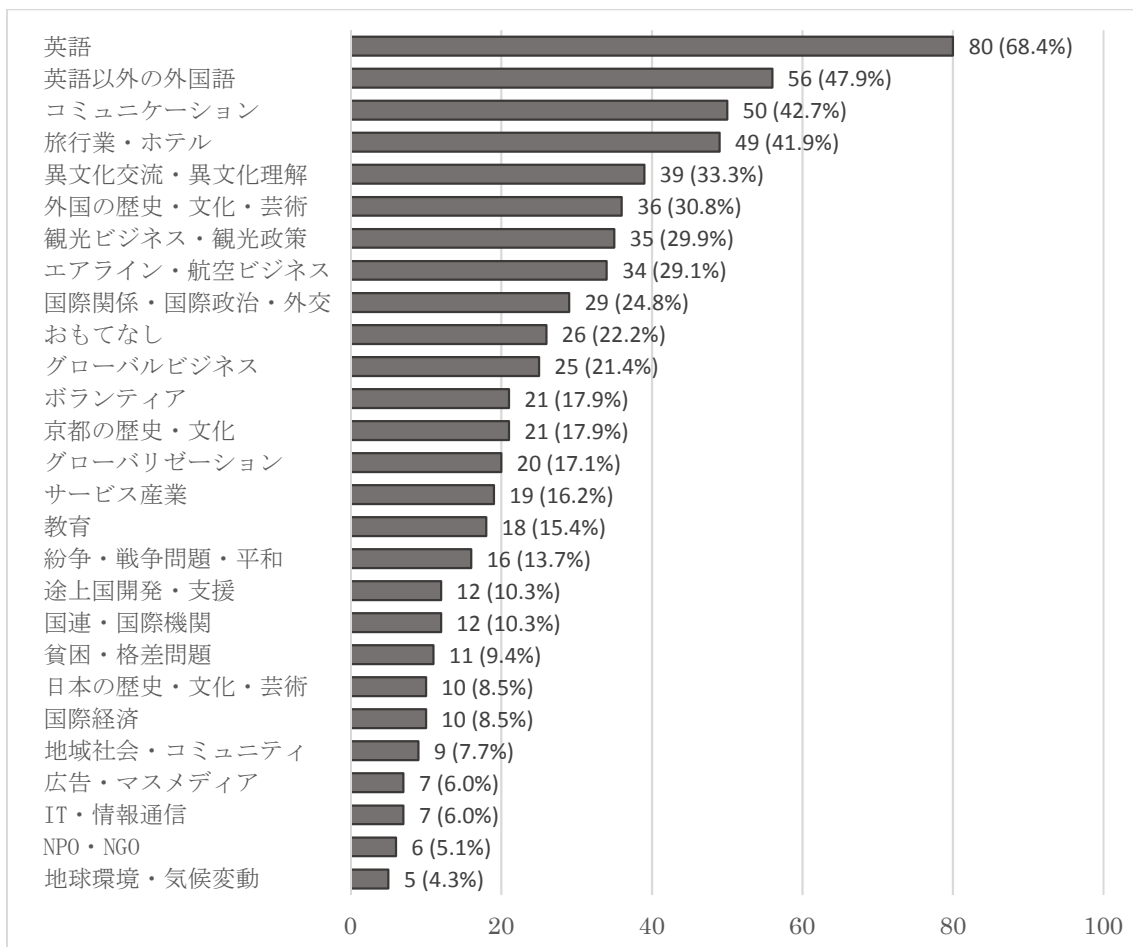
【図表 8】卒業後の進路や職業のイメージはどれくらいあるか

大学で身に着けたい知識やスキルを複数選択式でたずねた（図表 9）。外国語大学であることから、やはり「外国語運用能力」「コミュニケーション能力」「異文化理解」に言及する学生が多い。他方で気になる点は、外国語以外の学科の専門的知識への言及が少ない点である。短期大学の2年間では外国語を集中的に学びたいということだろう。

大学で学びたいことや興味のある分野についても、やはり「外国語」や「コミュニケーション」への言及が多い（図表 10）。また、外国語以外では「旅行業・ホテル」への言及が多い。本学に入学して外国語やコミュニケーションを学ぶことは、卒業後にこうした業界で就職するという目標と結びついているのかもしれない。

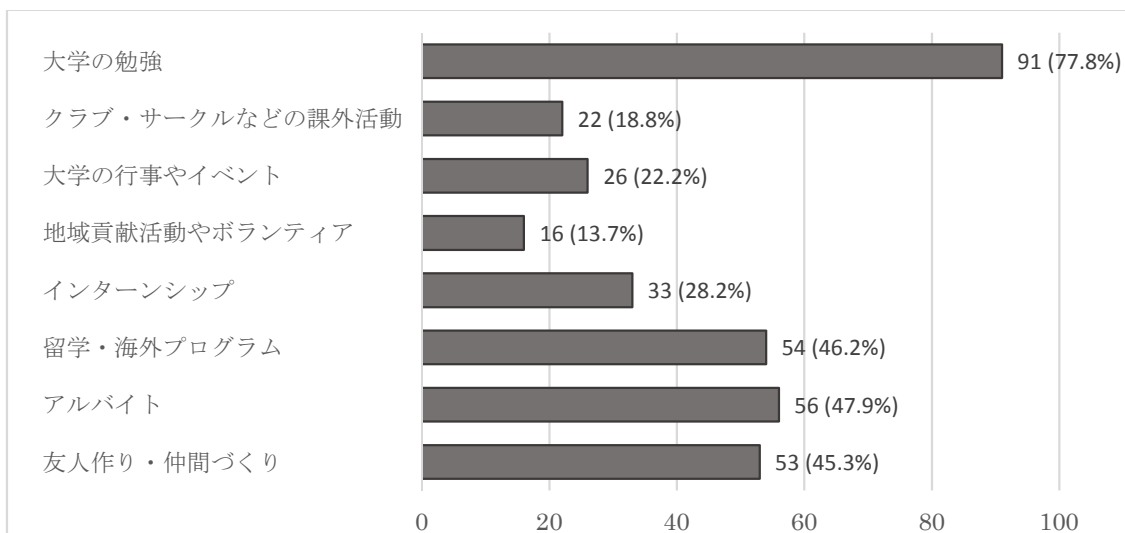


【図表 9】 大学で身に着けたい知識やスキル



【図表 10】 大学で勉強したい分野・興味があること

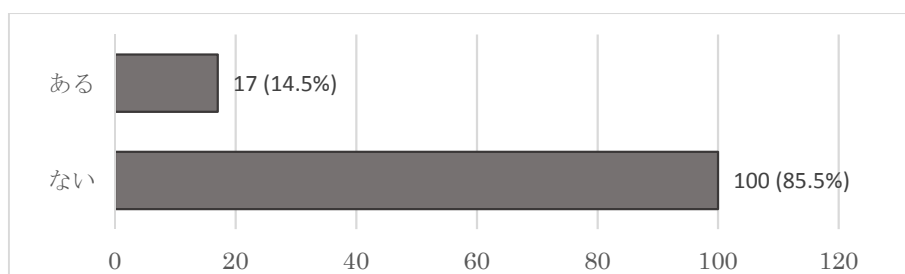
大学で力を入れたい取り組みについてたずねたところ、多くの学生は「大学の勉強」に言及する（図表 11）。これは入学直後の学生を対象とした調査であるため、模範的な回答をしようとするバイアスの可能性があるため、その点を割り引いてみる必要はある。しかし、大学では勉強に力を入れたい、ないしは力を入れるべきであると考えている学生が多いことは確かであるといえる。こうした新生の意識が、大学における主体的な学習行動につながるように導入することが初年次教育などにおける重要な課題だろう。



【図表 11】 大学で力を入れたい取り組み

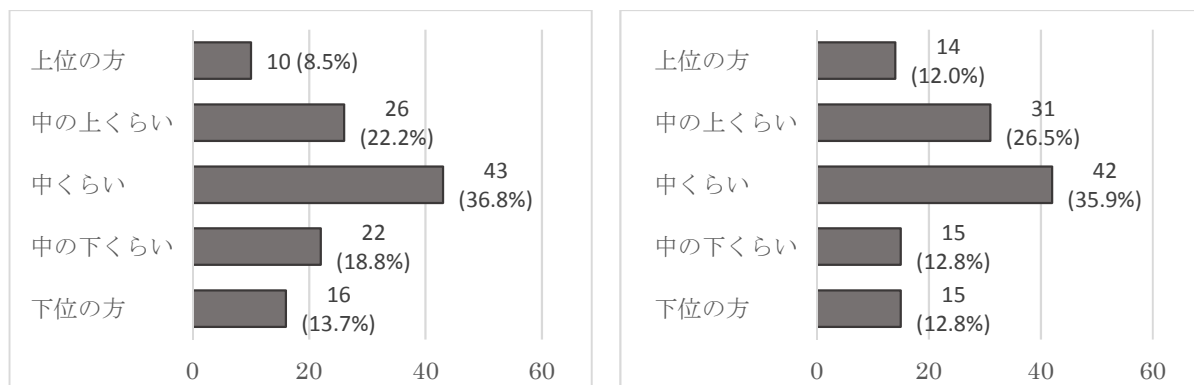
4. 入学前の経験、学修に対する志向や行動など

高校までの留学経験をたずねると、約 15%の学生が何らかの形で留学を経験していた（図表 12）。留学経験のある学生はあまりいないようである。



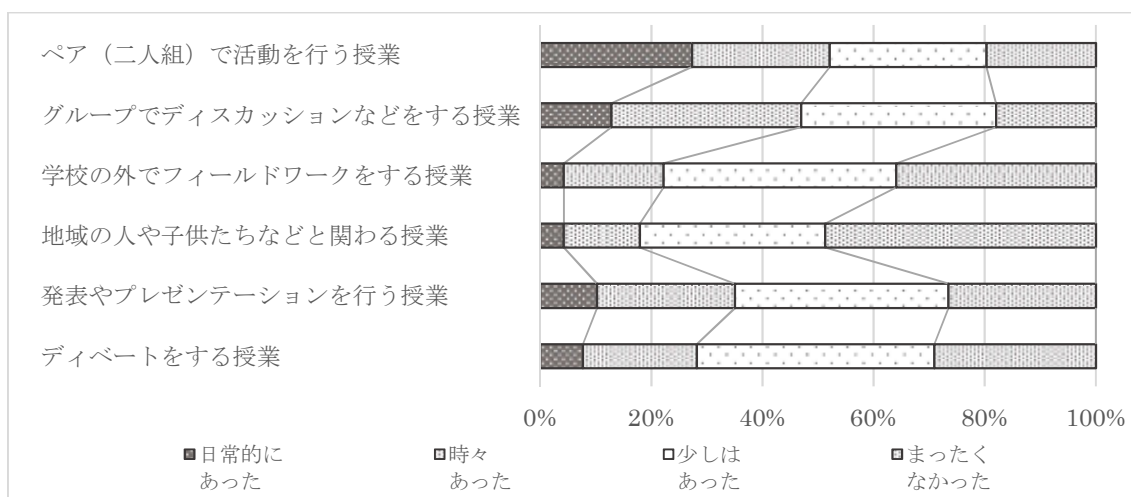
【図表 12】 高校までの留学経験

高校の時の成績について、全体の成績と英語の成績について、学校の中でどのくらいの位置にいたのかを自己評価で回答してもらった（図表 13）。全体の成績では「中くらい」という回答が最も多く、概ね正規分布に近い分布になる。英語の成績については、全体の成績よりも上位だったと回答する学生が若干多いようである。英語がある程度得意であった学生が本学に進学していることがわかる。



【図表 13】 高校生の時の全体の成績（左）と英語の成績（右）

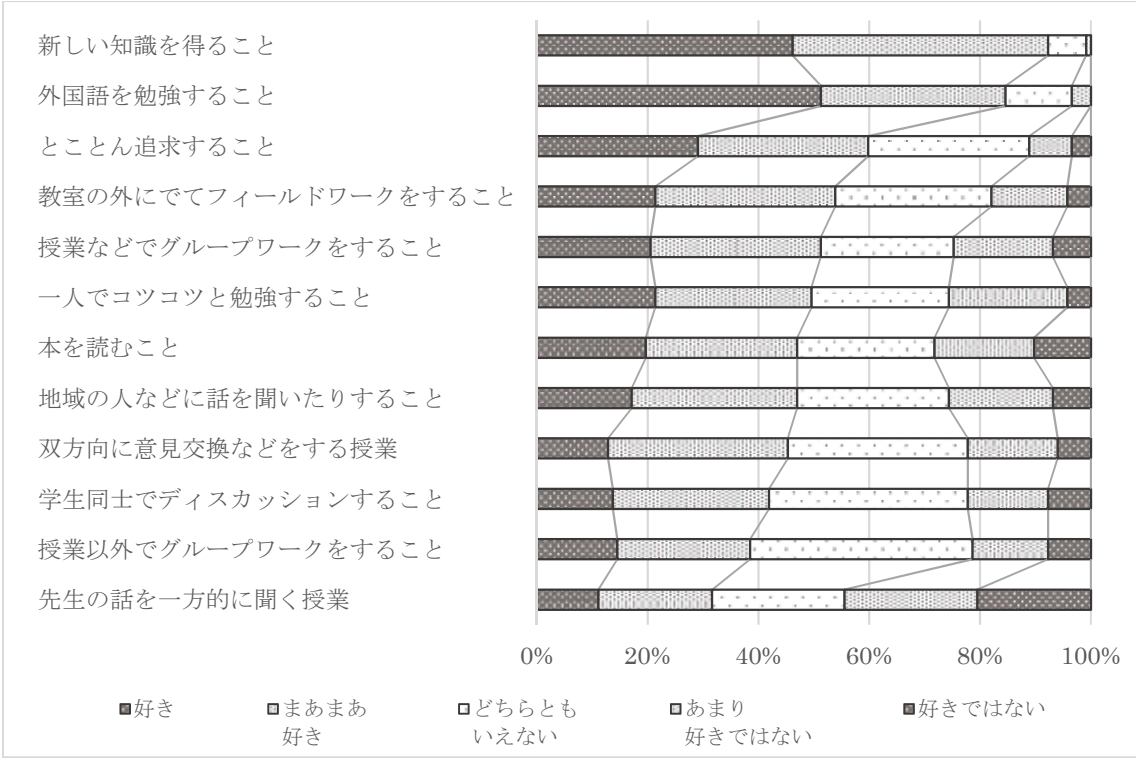
近年は高校の教育方法も変化しており、アクティブラーニングなどの手法が導入されるようになってきている。そこで高校までの学習経験についてたずねた（図表 14）。新入生のほとんどは、何らかの形でいわゆるアクティブラーニングを経験していることがわかる。また頻度が高かったのは、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションである。他方で、教室の外に足を運ぶような経験はあまりないようである。入学した段階で既にこうした学習形態を経験した学生がいることを踏まえて教育内容を検討していく必要があるだろう。



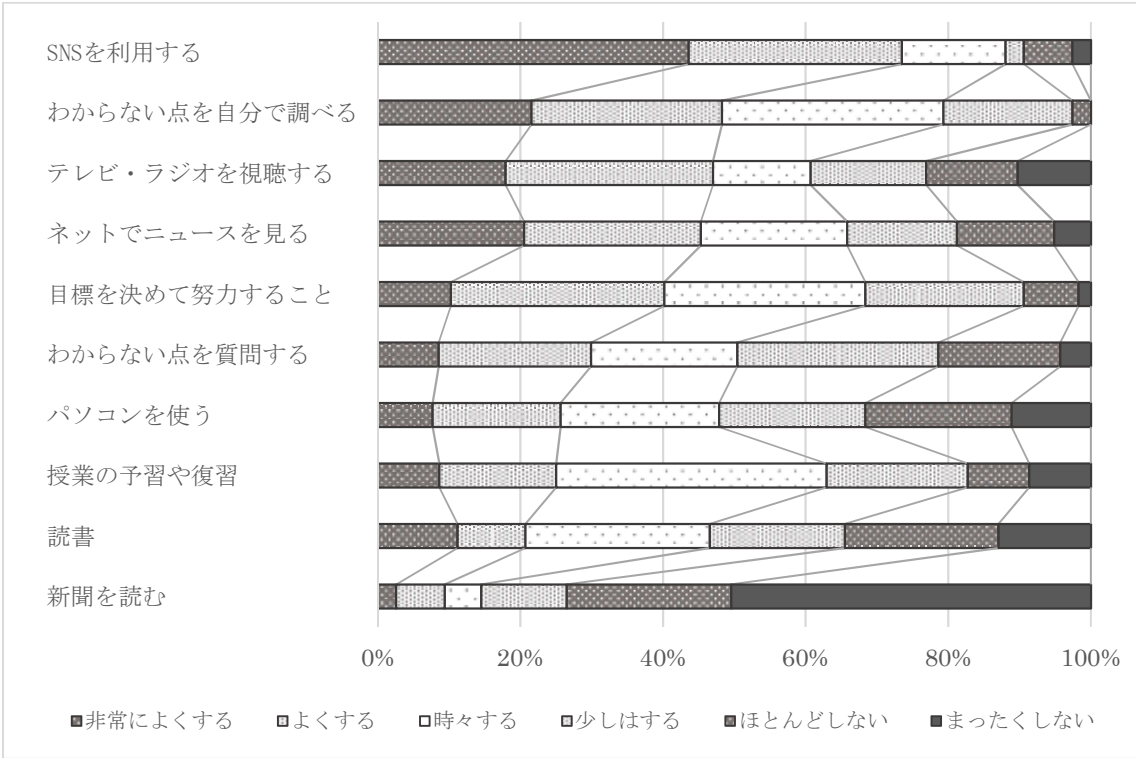
【図表 14】 高校生の時の学習経験

学修に対する志向や学習方法の好みについてたずねた（図表 15）。外国語大学の新生ということもあり、「外国語を勉強すること」が好きな学生が多いことがわかる。また「新しい知識を得ること」も好きだと回答する学生が多く、好奇心が旺盛であることもうかがえる。学びのスタイルでいえば、先生の話を一方向的に聞くよりもどちらかといえばアクティブな学び方を好むようである。

学修や生活における行動についてたずねた（図表 16）。最近の学生らしく、SNS を利用する頻度が高い。学習面では「わからないことを自分で調べる」という行動がよく行われるようである。これは「わからない点を質問する」よりも頻度が高い。読書については、まったくしないという学生はほとんどいないが、新聞はほとんど読まない学生が大半である。意外とテレビやラジオを視聴することがあるようである。



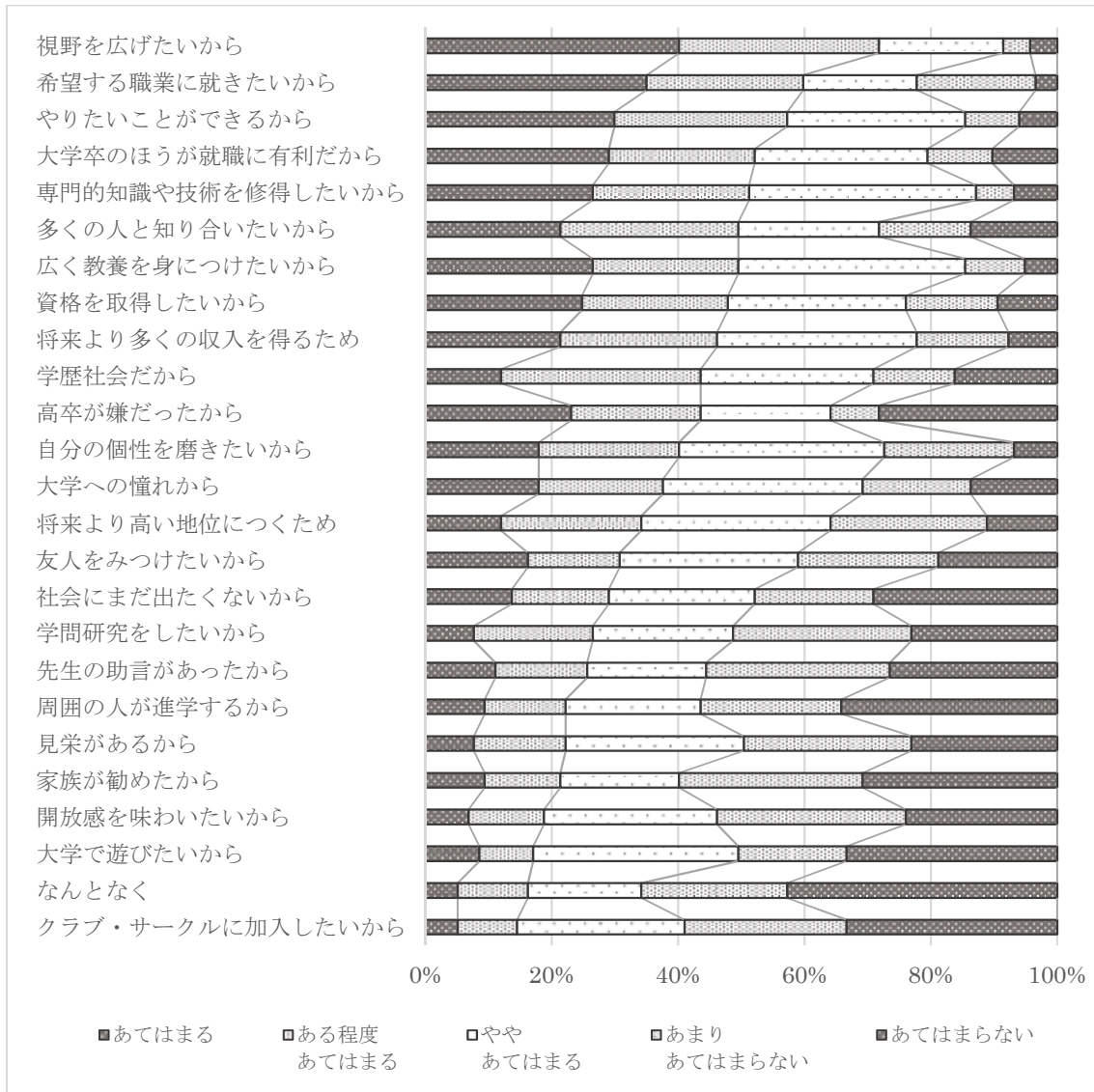
【図表 15】学修に対する志向



【図表 16】学修や生活についての行動様式

5. 大学進学 of 動機

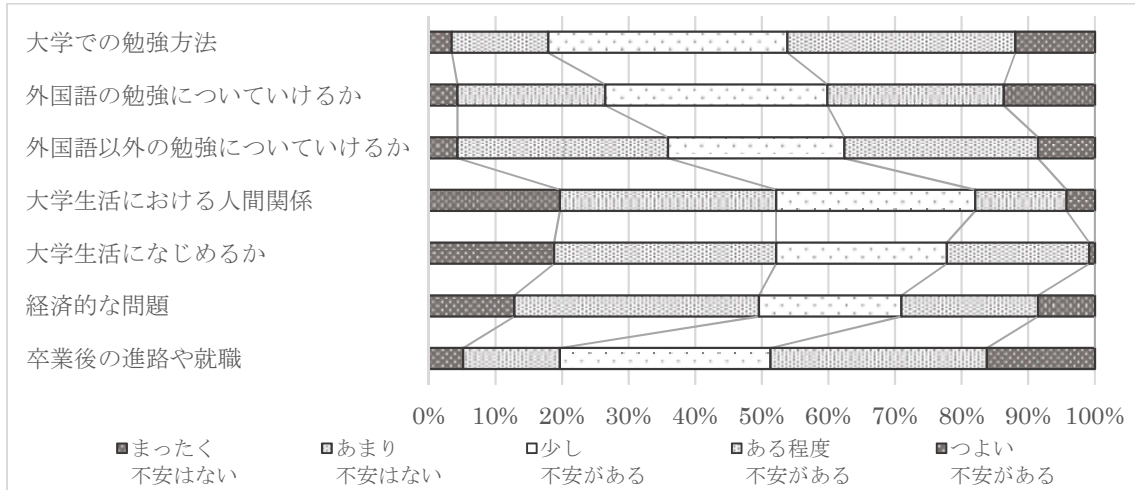
本学への進学理由ではなく、より一般に大学への進学動機をたずねた（図表 17）。それぞれの項目についてどの程度あてはまるのかを 5 件法でたずねたところ、「視野を広げたい」「希望する職業に就きたい」「専門的知識や技術を習得したい」など、主体的な進学動機を挙げる学生が全体としては多いようである。また、「大学卒のほうが就職に有利」という気持ちもあるようである。



【図表 17】 大学への進学動機

6. 大学生活における不安

大学生活における不安についてたずねた（図表 18）。全体として不安が特に大きいというわけではないが、項目によっては半数程度の学生が不安を感じるものもみられる。相対的に不安が大きいのは、大学での学習面と卒業後の進路である。他方で、大学生活そのものになじめるかどうか、といった点にはあまり不安を感じていないようである。



【図表 18】 大学生活における不安